研究だより

2019年10月15日
NO　18
2の2担任

説明文の読みを子供に委ねる　　10月7日の校内研修会をうけて

2年国語「さけが大きくなるまで」　～ 子供は一回でどこまで読めているのか～

10月7日、学力テストの6年生の問題を解きながら研修会を行った。話題に上がったことの中で、「たくさんある情報から必要な内容を的確に取捨選択して読み取っていく力が必要」という点について心に留まったので、実践してみた。

「さけが大きくなるまで」は、写真も含めて8ページ、10段落に渡る説明文である。音読すると4分30秒かかる。従来私は、全文をまず読み、分かったことや疑問などを感想として書かせ、何度も音読を繰り返しながら、段落ごとにそれを読み解いていくというやり方でやってきた。しかし、現在求められているのは、そんな教師主導の段落ごとに足止めをくらったような読み方ではない。何がわかるのか、何を伝えようとしているのか、まず、自分で説明文全体に立ち向かっていく力である。そこで今回は、

①いきなり課題提示をする。「さけはどこで生まれ、どのようにして大きくなったのでしょうか。」

②一度だけみんなで読む。（今回はCDの範読を教科書を見ながら聞く）

③個別に課題解決。（ノートにまとめる）　の流れで進めてみた。以下は児童のノート。

さけの赤ちゃん
⇨
さけの大人
⇦
川に行ってたまごをうむ
⇦
さけの小魚になる
⇦
海でサメに食べられる
⇦
生きのこると、
自分が生まれた川にもどる

冬に生まれる
四センチメートルくらい
⇦
少しずつ大きくなって五センチ
海のほうこうにすすむ
⇦
えさをさがしてどんどん大きくなる
⇦
何か月かすると海についてえさをさがす
⇦
てんてきにつかまらないように
いっぱいえさをつかまえてたべて
いっててんてきにつかまえられない
ちゃんとした体をもつ
⇦
そして大人
でも人間は一年中、冬でも夏でも
秋でも六月のつゆでも生まれる。

冬、川で生まれる
①三センチくらい。赤いぐみのようなものをもつ。
②やがて、えいようのふくろがなくなり四センチになる。
③春、五センチになったさけが海へ行く。
④一か月くらいの間、川口の近くでくらす。⑤八センチくらいになる。
⑥広い海のくらしがはじまる。
⑦ほとんどのさけが食べられ死ぬ。
⑧生きのこったさけは、自分が生まれた場所へもどりたまごをうむ。
（はじめにもどる）
⇦
⓪川上へすすみ、たまごをうむ

さけが生まれた
ところ
すなや小石のところ

個別の読み取りの時間に入ってから、10分間、課題に向き合う静かな時間が流れた。子供達は自分のペースで教科書をめくりながら再び読み、好きなようにまとめた。当然、「どこで生まれ、どのようにして大きくなったのか」という課題をすべて解決できたわけではないが、読み取ること自体を楽しんでいたように見えた。「国語の時間がすきになったちゃいました」とふりかえった子もいた。

17人がノートを提出した。どの子も課題にそった読みをしており、自分なりの言葉や、図、イラストなども使ってまとめていた。

さて、第２教時目以降、どのように進めていけばいいだろう。子供の中に宿った意欲をどう、深めていけるのか…。